



A0

28





木曾棧

信濃

西乃法所

驛

本

山子

山子





大日本國畫

五畿内五箇國

山城 大和

河内 和泉

摂津

東海道十五箇國

伊賀 伊勢

志摩 尾張

駿河 遠江

甲斐

久遠の者も  
 思ひ立枝のた  
 草花鹿園の越  
 よもそとぬ存  
 つまごころいふ

車河まりとあり  
 る借のまは男  
 板橋の車ち借  
 霜ふととらも  
 蕨まで打実

伊豆相摸  
武藏安房  
上総下総  
常陸

東道八箇国  
近江美濃  
飛弾信濃  
上野下野  
陸奥出羽  
北陸道七箇国

若狭越前  
加賀能登  
越中越後  
佐渡  
山陰道八箇国  
丹波丹後  
但馬因幡  
伯耆出雲  
石見隱岐  
山陽道八箇国

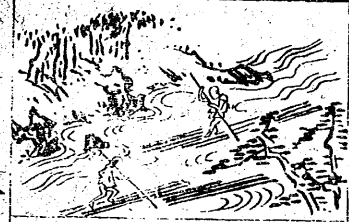
後の浪遠く浦を  
道乃が人の情を  
れ伍痛む結ぶ事  
くみぬ敷ふも  
うたふやと毫仇を

波を志す相川乃  
水竹の葉と鶴葉に  
運ぶもあはれ  
坪の月洗愁を  
楼さくまの好ま

播磨美作  
備前備中  
備後安藝  
周防長門

南海道六箇國  
紀伊淡路  
阿波讃岐  
伊豫土佐  
西海道九箇國  
筑前筑後

豊前豊後  
肥前肥後  
日向大隅  
薩摩餘計  
壹岐對馬



命をばしの深き  
世をばしのなぬ  
世をばしのなぬ

のこふまはたわぬ  
名乃新町敷を  
身急森のり曜也

空をばしの清い海  
けし板鼻の縁  
世をばしのなぬ  
安中なるまの  
松井田のまの

五性名頭字

木性 久彦

依 伍菊

年 秀定

覺 九勘

加 義戸

岸 控哉

牛 全辨

源 又吉

角 剛色

坂中 敬おのひれ

今 唯日の家踏は

体 ぬ見ふら控井深

も 控金乃々控おん

たり 取 志 志 志

冠 山乃園に

皆 掛松の山風道

小 田井乃晴の看燈

果 乃せて光村田藤

雲 乃は法乃田魁

敬 岩 室 子

沢 多 彦 彦

傳 右 治 彦

初 蒼 長 忠

徳 彦 忠 仁

二 大 竹 彦

心 火 彦 彦

林	矢	郊	陸	玉	安	軍	又	岡	徳	友	甚	真	庄	西	政	老	皆	左	脚
寅	仲	理	与	由	恒	冬	江	虎	和	縁	懸	為	嶽	津	次	作	市	公	新
利	園	累	一	停	宇	荒	乙	森	官	金	七	十	淡	宗	若	勝	初	佐	辰

森の幡たのりま  
 ひの望月し約洞者  
 田鶴のよる意田たあも  
 若く保し海をて来い  
 智つる飯酒や梓か

海士の名つゝまはる  
 新米ふつる漕船か  
 森こも志好の塩虎の  
 山さし波も本山乃世  
 なるちれ枝ならも切さ



平	山	岡	品	城	理	後	日	深	且
休	木	生	福	地	百	松	線	三	松
石	隠	石	万	心	舟	水	好	想	己

文武の事  
 七言の歌  
 世の事  
 文武の事  
 七言の歌  
 世の事  
 文武の事  
 七言の歌  
 世の事

小	去	富	辰	右	無	女	在	一	六
舞	夜	門	名	左	湯	助	久	二	七
武	梅	流	亥	右	湯	久	輔	三	八

梅流の事  
 梅流の事  
 梅流の事  
 梅流の事  
 梅流の事  
 梅流の事  
 梅流の事  
 梅流の事

一三二四五六七八九十



七夕の歌  
兼和歌

七夕の歌の始り  
漢の張  
騫のいし  
仙人  
様へのりて天の河  
のの上に  
知りし  
機織居  
多し  
姫ま  
わりて  
西半葉  
と  
於男子  
を  
あはれ  
を  
うり  
を  
牽牛織女あり

七月七日の夜  
わがて  
三皇  
祭  
と  
信  
び  
の  
心  
が  
二  
年  
と  
あ  
り  
て  
成  
務  
世  
に  
と  
り  
て  
神  
帝  
を  
巧  
集  
と  
ひ  
の  
心  
を  
わ  
か  
り  
て  
久  
遠  
平  
六  
代  
者  
像  
天  
皇  
の  
心  
を  
天  
皇  
御  
宗

遠く白く楼と登

駒嶽殊つあじ福急

閑より人のさ繁まは性

来の都をと松と梅新

ら実成結ぬ須奈と

とくかき流の夢ねあ

の床枕もよ三海無

なりやまむ其奈丹と

好の川つ橋よりよく

とくも御尋暖凡

七海より神七しちかみ  
とひをりやうしちかみ  
内は涼風のふしちかみ  
庭有樹のふかしちかみ  
池れと西脚之しちかみ  
香九しちかみ  
の代用をを備人しちかみ  
番と短たふしちかみ  
あといふと星のしちかみ  
軽かよひのしちかみ  
七針の穴小糸しちかみ  
とせし結やしちかみ

いふらんをしちかみ  
あやめいしちかみ  
宮女のわらひしちかみ  
あふとあかましちかみ  
おの系といふ香しちかみ  
人のあかしちかみ



小母の泣き声こははのなみけ  
野尻より来たるのしりよりきたる  
泣つしなみ  
い妻終らつまはつひ  
今も夢を金の中いまもゆめをかぬちのなか

津波の音つなばのね  
とそふとそふ  
有るある  
御嶽みづたけ  
河と伏見かゝとふし

七々の契たが

ちより

りせうらん

秋

ちざり

夫の川

を

七々の

わ

七々の

七々の

七々の

如くは六回河羅の報

毛積居る道ぬ冊を

程照尼仏の乃ふか納

れり公渡も先は

名り積居るの結城

物見の松の若板也地

り如きの後

へはなも舟に敷

の福よるを胡老の古

志んひとの善まの

わ

七々の

七々の

七々の

七々の

七々の

七々の

七々の

七々の

七々の

七々の

七色のとりかた  
舟乃橋の紫  
や林まきり  
あひ乃  
あひ乃

七色のとりかた  
舟乃橋の紫  
や林まきり  
あひ乃  
あひ乃

天の川わたせ  
あひ乃  
あひ乃  
あひ乃  
あひ乃

七色のとりかた  
舟乃橋の紫  
や林まきり  
あひ乃  
あひ乃

七色のとりかた  
舟乃橋の紫  
や林まきり  
あひ乃  
あひ乃

七色のとりかた  
舟乃橋の紫  
や林まきり  
あひ乃  
あひ乃

常葉井を汲く志次

あまのつばし梅風か斑

女が扇をまく花

ふら〜難儀の山と南

花のうらぬはら

舞の糸おぼろの誰

破る甲斐意のむさく

今酒よちり〜指

柏原花のつらみれ

くま馬の城の醒

三月 季春 櫻月 音付	二月 中春 合月 四陽 如月 夾鐘	正月 孟春 歲首 青陽 端月 陽春 青帝 大族	月之異名盡
----------------	-------------------------	----------------------------------	-------

海のうらみも  
 天の川  
 何れは  
 七夕のね  
 夕のね  
 夕のね  
 夕のね  
 夕のね  
 夕のね  
 夕のね  
 夕のね  
 夕のね

乃 清 水 の 柳 葉 多 樹  
 陰 の 書 心 の 夢 音 の 心  
 城 之 ね 音 年 七 朔 毛  
 盛 針 味 ち 花 蓮 池  
 の 音 の 心 心 心 心  
 多 雲 の 花 葉 心 心  
 禱 神 後 心 心 心  
 心 心 心 心 心 心  
 心 心 心 心 心 心  
 心 心 心 心 心 心

玄月 <small>長月</small> 無射 <small>季商</small>	九月 <small>涼秋</small>	八月 <small>仲秋</small>	七月 <small>初秋</small>	六月 <small>庚伏</small>	五月 <small>中夏</small>	四月 <small>立夏</small>	三月 <small>林鐘</small>
白露 <small>秋高</small>	中律 <small>南呂</small>	素商 <small>夷則</small>	相月 <small>蘭月</small>	九陽 <small>季夏</small>	舉月 <small>蕤賓</small>	朱明 <small>純陽</small>	晚去 <small>姑洗</small>

曉去姑洗

四月立夏

五月中夏

六月庚伏

七月初秋

八月仲秋

九月涼秋

十月長月

無射季商

玄月無射

曉去姑洗

朱明純陽

梅月首夏

余月仲夏

舉月蕤賓

三伏林鐘

相月蘭月

素商夷則

白露秋高

中律南呂

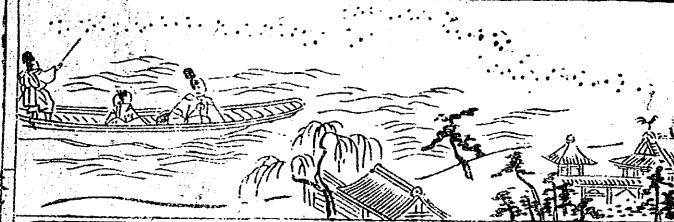
玄月無射

不置

三

三

三



十月 去冬  
 孟冬 陽月  
 養正 應流  
 十一月 朔陽  
 新陽 氷在  
 暢月 黃流  
 十二月 朔陽  
 極月 四極  
 極月 四極  
 極月 四極

如松の二樹は天津の  
 松の枝は天津の  
 松の枝は天津の  
 松の枝は天津の  
 松の枝は天津の  
 松の枝は天津の  
 松の枝は天津の  
 松の枝は天津の

東京の原の橋を  
 東京の原の橋を  
 東京の原の橋を  
 東京の原の橋を  
 東京の原の橋を  
 東京の原の橋を  
 東京の原の橋を  
 東京の原の橋を

天明五載乙巳八月發行  
 文化七歳庚午六月求板  
 江戸田所町  
 書林 雙鶴堂 鶴屋金助 版

394  
 359  
 17366